# ボランティア３０年史

済生会川口総合病院

表紙　デザイン協力
トールペイントボランティア　藤澤恵子さん

## はじめに

20年史がつくられて10年、未来へまかれた種は多くの方々の助力をいただき、さらに美しい花を咲かせ素晴らしいたくさんの果実となりました。そして、アフターコロナ元年、さまざまな苦難を乗り越えて新たな歩みがはじまっています。

多くの方々の想いをつなぐ、希望の10年をつくる30年史ができあがりました。

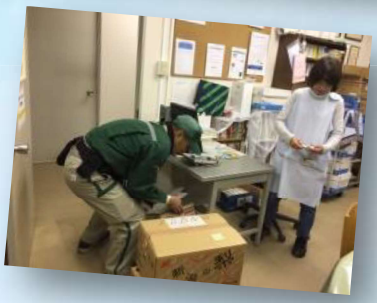
本当にありがとうございました。

ボランティアコーディネーター　八木橋　克美

休憩コーナー

うれしいひな祭り

A
G
B
F
C
E
D
J



# ボランティアさんのいる風景

# ボランティア活動の
# はじまり

1992年
11月　なでしこ介護
ボランティアクラブ誕生

1996年
9月　絵手紙ボランティアふじの会
絵手紙の院内掲示

1997年
6月　ボランティアルーム
設置

1997年
10月　ボランティア
推進委員会発足

1997年
12月　外来にて患者案内
ボランティア活動開始

1998年
10月　小児病棟で
ボランティア活動開始

1999年
1月　ボランティア
交流会開始

1999年
6月　ボランティア
講座開始

2000年
8月　ステップアップ
研修開始

2005年
6月　新病院落成

2008年
2月　専任ボランティア
コーディネーター配置

2008年
9月　病院ボランティア
体験入門講座再開
10月　ステップアップ講座
「認知症体験」

2010年
4月　たすけあいの輪
活動開始

2011年
12月　ステップアップ講座
「感染症予防」

3月　ステップアップ講座
「手足浴」

2012年
7月　ボランティア
サロン開始

2013年
4月　ボランティア20年史
「灯り　バトンをつないで」頒布

# 30年史ガイド

未来へ・・・

2023年

3月　ボランティア活動全面再開
3月　ボランティア30年史
「虹～未来へつなぐ希望のかけ橋～」
頒布

2022年

3月　集まらないボランティア交流会を開催
5月　Voルーム西館へ引っ越し
11月　地域支援を語ろう会開催
12月　病院長座談会開催

2021年

4月　コーディネーター通信開始
10月　ステップアップ講座「感染対策」YouTubeで開催

2020年

2月末
新型コロナウイルスの影響で活動休止

2019年

6月　オルフェウスコンサート
200回
8月　ハモニカ風あそび
活動開始

2018年

11月　ステップアップ講座
「交通安全」

2017年

4月　6B病棟で
ボランティア
活動開始

2016年

11月　ギターミニコンサート
活動開始

3月　ステップアップ講座
「接遇講座」

2015年

4月　暮らしの保健室
（戸山ハイツ）見学

2014年

5月　病棟サロンスタート
6月　第1回在宅支援ボランティア講座

2013年

11月　ステップアップ講座
認知症サポーター養成
12月　横浜市立附属大学病院
図書ボランティア見学

7・8月　孤立防止フォーラム参加
7月　ボランティアかわら版発行

# 目次


はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

活動写真 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

30年史ガイド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

目次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

祝辞

済生会川口総合病院　病院長　佐藤　雅彦 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

社会福祉法人恩賜財団済生会　理事長　炭谷　茂 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

済生会川口総合病院　ボランティア委員会委員長　名古屋　恵子 ・・・・・・・・・・・ 11

済生会川口総合病院　事務部長　清水　吉則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

社会福祉法人恩賜財団埼玉県済生会　支部長
埼玉県済生会川口総合病院　名誉院長　原澤　茂 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

20年史で描かれた未来 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

活動紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

活動をサポート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

済生会の取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

ボランティアかわら版 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

地域支援を語ろう会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

病院長座談会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

ここから未来へ動き出す！ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

資料編 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

メイキング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

# ボランティア活動30年

済生会川口総合病院　病院長
佐藤　雅彦

当院のボランティア活動がはじまり、今年で30年の月日がたつことになります。長期にわたるボランティア活動であることに加え、424床の病院としては、数的にも多い100名を超える方が登録され活動されております。ボランティアのみなさん、ご協力いただいていることに心より感謝を申し上げます。

2020年から感染拡大を繰り返している新型コロナウイルス感染症により、入院患者さんのご家族の面会制限を行っていると同時に、感染の機会を減らすという意味から、ボランティア活動も制限させていただいており、心苦しく思っております。現在は感染の状況により少しずつ活動を再開している状況です。

当院ではボランティア委員会を置き、医療福祉連携部医療福祉事業課の職員を中心にボランティア活動の調整を行っております。今後もボランティアの方の好意を大切に・意思を尊重し、当院で多くの活動を行っていただける環境づくりを継続してまいります。

当院の使命である、急性期基幹病院として質の高い医療の提供により地域に貢献すべく、ボランティアの皆様とともに進んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

# 済生会川口総合病院
# ボランティア30年史に
# よせて

この度、済生会川口総合病院ボランティア30年史発刊、本当におめでとうございます。

貴院でボランティアを受け入れ開始は1992年ですので、日本の病院ではこの分野でパイオニアと言えます。当時の病院の中には、病院はプロフェッショナルで患者の治療に当たっているので、外部の人の関与は邪魔になるとか、病院の内部事情を見られると具合が悪いなどの理由からボランティアの受入れに消極的な向きがありました。

一方、貴院ではボランティアを積極的な受入れを続けられ、着実な成果を重ねられました。新型コロナ感染前の2018年度実績では延べ活動人数が5,430名、延べ活動時間数が12,773時間とその大きさに驚くばかりです。活動範囲は、外来患者の案内、小児入院患者の学習や遊び、成人入院患者の傾聴、院内コンサートなど多岐にわたります。

更生保護施設入所者、ホームレス、難民への援助のように済生会の理念に沿う活動が、活発に行われているのも貴院の特色です。ともすれば、これらの人への支援について医療施設や福祉施設では消極的になりがちですが、貴院では、ボランティアの助けも受けながら、積極的に乗り出しています。

私は、長年、更生保護の仕事に従事していますが、法務省や保護司の人から「さいたま市の更生保護施設清心寮は、川口総合病院に大変お世話になり、助かっている」とお礼を言われると、大変嬉しく、かつ誇りに感じます。

2020年からの新型コロナ感染拡大のため、ボランティア活動は制限せざるを得ませんでした。それが長期に及んだため、拡大したボランティア活動が消えるのではないかと心配しました。

しかし、これは杞憂でした。新型コロナ感染が下降するに従い、ボランティア活動は、戻り始めています。2021年度の延べ活動人数は447名、述べ活動時間数は1,103時間と対前年度3倍以上の増加です。新型コロナ感染前の数字を超えるのは、時間の問題です。というのは、貴院では長年、ボランティア研修会の開催、活動助成金の支給、活動者表彰などを実施し、ボランティア活動の希望者の増加や技量の向上に努められてきたからです。

社会福祉法人恩賜財団済生会理事長
炭谷　茂

済生会は明治天皇によって明治44年に設立されて以来、111年が経過しました。済生会は、「施薬救療」の理念に基づき、医療サービスに恵まれない人々を支援することを使命として発足しました。

今日の状況は、当時とは異なっていますが、少子超高齢社会の到来、地域社会の相互扶助の脆弱化、所得格差の拡大等によって日本社会の底辺で医療、福祉、生活などについて深刻な問題を抱える人が沢山存在しています。例えば仕事に就けない精神障害や発達障害の人、都会で孤立する高齢者、児童虐待や引きこもりの人などです。これらの人たちは、病気、障害、貧困、差別など複合的な解決困難な問題を抱えています。

しかし、これらの課題に対する社会の関心が低く、公的部門、民間部門双方とも取り組みは不十分です。そこで、済生会では日本の社会政策史上初めて、2010年度から「なでしこプラン（生活困窮者支援事業）」、2020年度から「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」を策定して、これらの問題に対して済生会の総力を挙げて主体的に取り組んでいます。実行に当たってはボランティアの方々の協力が不可欠ですが、貴院では、創意工夫を凝らしてそのモデルを開発されています。

済生会川口総合病院におけるこれまでのボランティア活動に敬意を表するとともに、今後のボランティア活動がますます発展されることを祈念します。

# 希望に向かって

ボランティア委員会　委員長
名古屋　恵子

当院がボランティア活動を開始して30年を迎えました。2013年に「ボランティア20年史灯りーバトンをつないでー」を発刊してから10年が経過しています。この10年間は、20年史で未来に向けて提案された3つのこと（ボランティアコーナーの設置、ＩＴ化のススメ、在宅支援ボランティア）の実現のために少しずつ取り組み、確かにバトンをつないできました。外来フロアでの案内、図書コーナーの設置と貸し出し、病棟での活動、イベント活動、ボランティアのホームページ開設、ホームレス支援、「ほっとサロン」の開設等の活動は、より充実し、ボランティアの皆さんのやりがいや成長につながったと思います。このことは、毎年3月に開催するボランティア交流会での活動報告で実感し、うれしく思っていました。

ところが、2020年、新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちの生活は一変しました。ボランティアの活動も中止せざるを得なくなりました。院内で戸惑う外来患者さん、小児科病棟で泣いている子どもたち、入院患者さんは面会制限のために家族と会えず日常から隔絶され、外来フロアやディールームから聞こえていた音楽や笑い声も無くなりました。病院は、ボランティアの皆さんを失って、改めてその存在の大きさに気づかされたのです。そんな中、ボランティアの皆さんが、病院の外にあるボランティアルームを使って活動を開始しました。できることは限られているけれど、少しずつ動き出したのです。ホームページからの情報発信やメールと動画によるステップアップ講座の開催等、ＩＴの活用も進みました。

これからもコロナとともに（Withコロナ）生活をしていかなければなりません。コロナ禍で地域での孤立や筋力低下によってフレイルの進行した高齢者のために、「ほっとサロン」の活動はますます重要になると考えます。病院では、ボランティアの皆さんが復帰できる準備を始めています。病院の中に再び音楽や笑い声が戻ってくる日を願い、地域の人々が希望を持って生活できるようになるために、皆さんを待っています。

# ボランティア30年史に寄せて

事務部長
清水　吉則

当院でのボランティア活動が1992年の開始から先達として多くのボランティアの皆さんによりバトンがつながれ、2023年で30年を迎えること大変喜ばしいことと思います。

私が社会人となった1993年より前から始まっていた当院のボランティア活動の歴史を積み重ねてこられた皆さんには敬意を表する限りです。

さて、その様な長い歴史を持つ当院のボランティア活動ですが、2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の蔓延という社会環境の大きな変化により活動が大幅に制限されました。そのような中でもマスク不足に対してペーパータオルと輪ゴムを使った簡易マスクの制作・配付や院外でできる活動の模索などいろいろなアイデアを寄せ合いボランティアを継続していただき本当にありがとうございました。

2021年度からは、活動も少しずつ戻りだしてきて、西館のスペースを活用して今までの担当の枠を超えた活動をする人や院内での活動の一部再開するなどコロナ前に戻るための取り組みも始まりました。また、オンラインですがボランティア交流会も再開することが出来ました。

2022年度は、Withコロナフェーズとなりコロナ禍も変化を見せ始めています。この大きな困難を乗り越えた経験を糧にこれからのボランティア活動がコロナ前以上に院内の活動だけでなく、当院を取り巻く地域も活性化する活動として発展し多くのボランティアの皆さんのバトンリレーが末永く続くよう祈念いたします。

# 院内ボランティア30周年によせて

社会福祉法人恩賜財団埼玉県済生会　支部長
埼玉県済生会川口総合病院　名誉院長
原澤　茂

院内ボランティアの30周年記念誌発行、おめでとうございます。つい数年前に20周年記念誌（当時病院長）に寄稿したばかりで、時のすぎる速さを実感しています。

約3年間の新型コロナ感染症の拡大により、病院の医療活動も多々制約を受けて、十分な能力を発揮できない状態が続いていました。第1波から第7波までに、日本人の6人に1人が陽性者になったくらいに感染者が拡大しました。

院内の医師、看護師などの医療従事者も感染し、病院経営も大変なことと推察します。早くポストコロナの訪れることを願っています。

さて、当院のボランティア活動は、コロナ以前は外来などでの御案内役や図書の貸し出しなどのフロア案内。病棟での各種備品の整備、成人病棟での傾聴、車椅子での散歩の補助、小児病棟での傾聴、抱っこボランティア、読み聞かせボランティアなどで活躍してきました。院外では、ホームレス支援の一環としてインフルエンザワクチン接種会場で「たすけあいの輪」として支援活動を行っていました。また、「ほっとサロン」は20周年記念誌で語られた事業を具現化し、「在宅支援ボランティア」として西館で活動していました。

2020年2月26日より今日までコロナ感染症のために一部の活動を除き、ボランティア活動を中止することを決定しました。

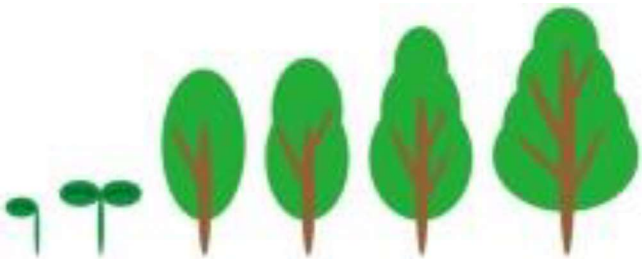
当院の院内ボランティア活動は、延べ人数もさることながら、延べ時間においても、済生会の内では、最大でありトップの座に居ることは変わらないと思っています。登録人数は約100名であり、個々のボランティアの皆さんには頭の下がる思いであり、大変感謝申し上げます。コロナ終息になりましたら、今以上に御理解、御協力をお願い申し上げます。

担当の医療福祉事業課の皆さんには、ＭＳＷを主体とする本来業務に加えて、済生会の思いであるソーシャルインクルージョンの実現の1つとしてボランティア交流会、ボランティア育成などに尽力されていることに敬意を表したいと思います。

今後とも、この30周年を機に、再スタートの思いで頑張ってほしいと願っています。益々のご発展を祈念しています。

# 10年の歩み

# 未来へ続け！！



# 20年史で描かれた未来
## ～その後の10年～

20年史の中で未来につながる活動として提案された、
**①ボランティアコーナーの設置②IT化のススメ③在宅支援ボランティア**の3つの活動。
社会情勢や病院の状況も変化していく中で、「今必要なものはなにか」「どのような活動がしたいか」を考えながら、20年史から受け継いだバトンを手に歩みを進めてきました。

そのすべてが当時描かれた未来にまで到達したとは言い難いですが、確かに足跡を残すことはできたと思います。3つの提案の現在地をこの30年史に記し、ここで歩みを止めるのではなく、半歩ずつでも邁進していけるように。そんな気持ちを込め、さらにバトンを引き継いでいきます。

医療福祉事業課　石川妃登美

| 3つの提案 | その1…ボランティコーナーの設置<br>その2…IT化のススメ<br>その3…在宅支援ボランティア |
|---|---|

その1

## ボランティアコーナーの設置

地域に開かれ、地域の拠点となる病院づくりを目指し、地域と病院のかけ橋となるべく受入れを推進してきた当院のボランティア活動。10年前にみんなで今後の活動を考えた際、どうしても欠かせないものとして、未来に向けて挙げていたのが「ボランティアコーナー」でした。

ボランティア活動の情報の収発信、患者さんの声をより近い距離で聴かせていただける傾聴の場、病院利用者が待合時間を有効活用できる患者サービスの一環として、20年史制作の際、提案されていました。

この10年間で「ボランティアコーナー」という明確な設置は叶いませんでしたが、内容のひとつとして提案された「ボランティア図書コーナー」は、ボランティアさん達の力により、大きく発展してきたと思います。
（図書ボランティアの活動紹介…P.27）

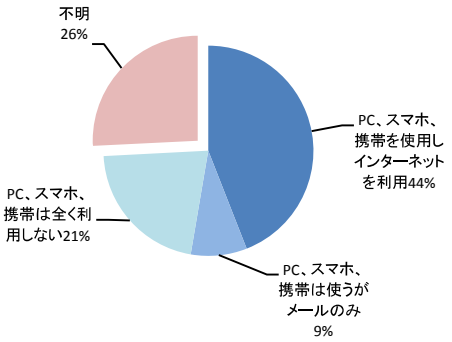
病院を利用する方々が笑顔でリラックスできるようなスペースが、病院にあったら良いと思いませんか？いつかみんなでつくることができたら良いですね！

その2

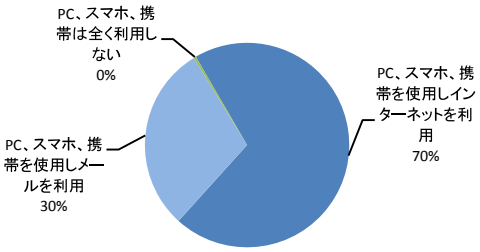
# IT化のススメ

スマートフォンやパソコン、携帯電話は今や欠かせない生活アイテムのひとつになりました。下記のグラフの通りボランティアさんの利用率も、この10年間で目に見えてアップしています。具体的に取り組んだオンライン化の内容も紹介しているのでご覧ください。

**みなさんの情報ツールの利用状況**




2013年アンケート




2022年アンケート

**メールの活用（2020年春～）**
全ボランティアさんにメールアドレスを確認。はじめの頃はアドレスの登録やメールの送受信が上手くいかず、何度もトライしたケースもありました。今では個人登録されているボランティアさん70名中60名が開通し、コーディネーター通信や職員からの健康情報、その他活動に関する細かいやり取りもメールで出来るようになっています。ボランティアさんからいただく返信には、私たちコーディネーターも元気をいただいています☆

・コロナで見通しが立たない心細い日々ですが、とても元気を戴きました！
・メッセージを拝見して繋がっていると思い起こされます。
（ボランティアさんより）

**ZoomやYouTubeへのチャレンジ！**
2021年度の「集まらない交流会」では、病院長と看護部長からのメッセージをYouTubeで配信。2022年3月と６月にはNHVA（日本病院ボランティア協会）のオンライン交流会に、延べ4名のボランティアさんとコーディネーターがZoomで参加しました。また、2022年度のステップアップ講座は、会場とZoomのハイブリッドで開催。4名のボランティアさんがZoom参加をしてくれました。

「楽しかった！」「どうなることかと思ったけど何とかなった」「ひとりではまだよく出来ない」等々…　（ボランティアさんより）

## LINE（ボランティア専用アカウント）の開設！

今後のボランティア活動の運営や、情報の収発信、共有、交流がよりスムーズに行えるよう、これから少しずつ整えていく予定です。お楽しみに♪
(詳しくはＰ.49)

現在LINEを利用していますか？　はい…52名・いいえ…12名
（ボランティアアンケート集計より）

# その3 在宅支援ボランティア

## 在宅支援ボランティアとは？

医療機関の特色を活かし、“傾聴”“サロン”を中心に、患者さん・家族へできる範囲でのお手伝いをしてゆく。 地域で孤立しがちな方などを対象に、“人との出会いが楽しくなる、心の負担が軽くなる”そんな活動を目指してスタートしました！

**2014年6月24日～25日（2日間）**
**第1回　在宅支援ボランティア講座　参加者12名**
がん・認知症・在宅ケア・障がい・患者の気持ちの受止め方・コミュニケーションなどについて学び、最終日には看護部長から終了証を授与。これからの活動への希望に満ちていました。

**2014年～2017年**
**病棟のデイルームからスタート！**
デイルームでほっとサロンを開催

**2014年～2015年**
**勉強会・茶話会（毎月）**
これからみんなで何をしてゆくか？必要なのはどんな事か？自分達にできることは何なのか？みんなでたくさん話し合い、思いを共有！！

## ほっとサロンOPEN

**西館　2016年5月9日（月）**

日向ぼっこみたいな場所になれたらいいなぁ…

**サロンの目的と願い**
①誰でも気軽に立ち寄れる居場所となる
②医療機関の特色を活かし、必要時に専門職へスムーズにつなぐことができる
③参加者がサロンを通じ様々な機関・参加者とのつながりをもてる

**暮らしの保健室との協働**
ほっとサロンは、ボランティアが主体となり様々なメニューを用意しているサロンです。その中で地域にお住まいの方々の健康維持、疾病、介護予防のサポートができるよう、社会福祉士や看護師、保健師が、必要に応じて参加者に寄り添っています。ボランティアサロンというリラックスした雰囲気が、相談のしやすさにつながっています。

## ほっとサロンってどんなサロン？

ボランティア一人ひとりの特技や資格をいかし、実に多彩なスケジュールを組んで開催しています。自分達で企画して、みんなで一緒に楽しめる面白さがありますね♪

### サロンに来て下さる方々

・ひとり暮らしで体調を崩したが、サロンに来ておしゃべりすると安心する。
・チクチク会が楽しくて待ち遠しいです。
・家族を亡くし落ち込んでいた。ここに来るようになって元気をもらえました！

### ボランティアさんの声

・毎回色々な話を聞かせていただいてます。これからも無理なく続けていきたいです。
・Xmas会や七夕まつりが盛り上がり、皆さんの笑顔が嬉しかったです。
・戦争の話、川口の今昔、色々な話を聞かせて貰えるのは楽しいです。
・「あなたがいる日だから来る」と言われたのは嬉しかったです。

### 訪問看護ステーションきゅうぽら 宮澤所長

みなさまのパワフルな活動に、感服です！
いつも笑顔をありがとうございます。
私も頑張ります！！

### ケアステーションなでしこ 福田所長

多くのボランティアさんに支えられて、病院や介護の生活にちょっとした潤いがもたらされます。これがとても大きな心のよりどころになっています。
いつも感謝です。

## コロナでサロンが開催できなかった間も…

季節に合わせて西館を飾って下さいました。（センスとアイディアがキラリ！）

地域とつながる**ほっとサロンだより**を、ボランティアセンターや公民館などに配布してくれています。

## そして再開！2023年3月からは、出張サロンもスタートしました！

西館での開催だけでなく、地域スペースをお借りして、出張型のサロンにもチャレンジ！明るく多才なボランティアさんがアイディアを持ち寄り、簡単な体操や脳トレゲームを取り入れています。何気ない会話にも花が咲き、みんなで集まれるのはいいなぁ～と改めて実感♪いろんな方に来ていただきたいです！！

# 活動紹介

## ～様々な形で病院を支えるボランティア活動～

## 外来

当院の外来フロアには、患者さんを温かく迎えてくれるボランティアさん達がいます。サポートが必要なのに、院内での付添い者が不在で困っている患者さんも多く、ボランティアさんの力は益々欠かせないものになっています。再来受付機のサポート、フロア案内、車椅子の移動介助、受付票の代筆などの他、誰か聞いて！という方の傾聴やお子さんへの声掛けまで…本当に幅広く活動して下さっています。

**渉外課　新井隆史**

職員が業務で時間に追われているなか、患者さんにとって声をかけやすい存在で、丁寧な対応で病院の印象を良くしていただいてます。経験値での知識も豊かなので、トータル的に臨機応変にフォローして下さっています。職員の手が足りず、他の対応もあるので大変助かっています。

ボランティアさん達の気づきやご意見で、院内が改善されたこともありました。

・トイレのおむつ替えの利用案内
・外来の案内板
　などなど

ボランティアは病院にとって良き理解者・アドバイザーである
（ボランティア活動に関する規程より）

以前は午前中だけだった活動も、「午後もいてほしい」という職員の要望を受けて、少しずつ活動時間や休憩時間をずらし、フロアにボランティアさんがいる時間帯を広げてきました。

～病院の変化～
・東館ＯＰＥＮ…３Ｆの渡り歩廊の往復は遠い～！
・再来受付機の入替え…診察券、予約票、クリアファイルと、
　目配り・気配り・細かいサポートが増えました。

## 新型コロナウイルスの感染拡大により活動休止・・・（2020年2月末～）

2020年2月末～活動が休止になりました。今まで談笑しながら往復していた救急外来の出入り口は封鎖され、正面玄関も職員が常駐して、マスクの着用や検温チェックを行っていました。

「済生会に来ればボランティアさんがいる」と思っていらっしゃる患者さんから、「ボランティアさんいないの？」「早く戻ってきてほしい」という声をたくさんいただきました。

## 活動再開！

外来１Ｆエスカレーター付近での転倒が続き、その対策のひとつとして 2022年4月から元職員ボランティアによる「見守り」の活動が始まりました。
2023年4月からは、全面的に再開です！！

**外来看護師　吉松ひろい**

ボランティア活動が再開し、スタッフ一同嬉しい気持ちでいっぱいです。いつも患者さんの案内や車椅子の移乗介助をして頂きありがとうございます。今年度からは内視鏡室で使用する、ろ紙の作成をして頂き大変助かっています。これからも宜しくお願いします。

今までの活動で
嬉しかったこと♪

- ボランティアさんがいると本当に嬉しいと言って、ニコニコしていた顔が印象に残っている。
- 「ありがとう」とわざわざ声をかけてもらえた。相手が何を希望しているか気配りをし、見守ることの大切さに気付かされた。まわりに優しくなれた事に感謝している。
- 掲示板にメッセージが乗せられており外来ボランティアの人にあたたかいお褒めの言葉があった。
- ご家族が一緒の待ち時間のご様子がとても温かく、患者さまを大切にされている空気が見てとれて、こちらもおだやかな気持ちにさせていただいた。
- 何年かぶりに受付けにみえた時に「あなたがいてくれて良かったわ。また宜しくね」と言われた。

**様々な対応が必要な「病院の顔」とも言える外来ボランティア☆**
**これからも、よろしくお願いします！！**

# 3B病棟

小児科病棟のボランティア活動内容はお子さんとの関わりを中心に様々です。その日の活動内容を連絡ノートや病棟のスタッフと確認し活動を始めます。

プレイルームのおもちゃ箱には沢山のおもちゃや絵本が入っていて、ボランティアさんは使い終わったものを丁寧に拭いて元の位置に戻してくれます。ベッドサイドで学習支援、赤ちゃん抱っこ、本の読み聞かせ、おもちゃで遊ぶなど子どもたちの体調や年齢などを考慮し、興味のある遊びを提供します。

工作、ゲーム、折り紙、手芸、バルーンアートなど、若いボランティアさんからベテランボランティアさんまで、それぞれの特技を活かした活動もしています。他に、タオルやオムツをたたむなど、病棟のお手伝いもしています。そして、プレイルームのホワイトボードには折り紙で作成した「おりがみ壁画」が飾られており、四季を感じることができます。時には子どもたちも参加しています。退院時には折り紙で作った「お守り」を差しあげていて、大変喜ばれています。

その他、病棟のスタッフと連携して、季節のレクレーションを盛り上げたり、月1回定例会や勉強会も開催し、知識を深めたりもしています。

たくさんの手作り作品は小児科病棟に彩りと癒しを提供しています。

## 横曽根おはなしたまて箱

季節の絵本、定番の絵本を中心に、手遊び･人形･わらべうた･紙芝居などを組み合わせ、プログラムを考えて活動していた、川口市横曽根公民館のおはなしボランティアです。

2019年2月で活動を終了しています。

コロナ禍で一旦休止になった活動も、2021年4月より一部の活動が再開！
ボランティアルームや西館1階のサロンスペースで活動していました。

**季節毎の「おりがみ壁画」の作成**
模造紙に直接作品を貼って仕上げることにより、病棟スタッフの手間を少なくするなどの工夫をしました。

**病棟の備品や環境整備の作業**
シーネ作り、チューブ切り、ガーゼ切りなど。

**お誕生日カードの作成**
訪問看護ステーションきゅうぽらからの依頼で手作りカードを作成しました。

**活動していてうれしかった事**
**印象に残っている事**

**ボランティア　郷田久美子**
長期に入院されていた男の子にたくさんの優しい笑顔をもらいました。何かほっとする瞬間でした。また、会いたいです。

**ボランティア　小林悦子**
付き添いをしている母親とのコミュニケーションから不安に思うことを聴き、それを伝えることができたこと。

**ボランティア　阿部輝代子**
学習支援をした子が成長の節目節目に様子を知らせてくれ、ついに結婚をしてお子さんを持つに至ったことも、手紙・写真などで連絡してくれました。本当にうれしい事でした。

**ボランティア　金子ゆかり**
一緒に活動している先輩ボランティアさんから学ぶことも多く、自分もそうなっていきたいと思います。

**ボランティア　藤澤恵子**
当時の小児科の大山先生に長男出産の際に心配してもらったり、娘の時も随分励ましていただきました。「済生会」って私の一番辛かった2年間を共有してたみたいな気がします。

**藤川 由紀子　橋本 亜友子(子ども療養支援士)**

30周年おめでとうございます。病棟でのボランティア活動ができない時も、壁面や工作キットなどで、ボランティアさんの存在を感じています。同時に、物足りなさも感じています。

私たちスタッフはもちろん、子どもやご家族も以前のように活動していただける日を心待ちにしています。これからも一緒に頑張っていきましょう！

# 4A病棟

主に外科の患者さんが入院している病棟で、タオルたたみ･テープカットなどの環境整備をしています。
いつも周りに気遣いをしてくれる、やさしいボランティアさん!!活動しながら患者さんの話し相手など看護助手さんを中心にスタッフと連携しながら活動をしています。

**ボランティア　茂木智恵子**

私は患者さんに「何してるの?ありがとう」などとよく声をかけられます。そんな時すごくうれしくなります。

**看護師　利根山香織**

いつもボランティア活動ありがとうございます。備品準備など、かゆい所に手が届く様な作業で病棟一同、本当に助かっています。病棟での活動をお待ちしています。

# 4B病棟

タオルたたみ･清拭車の準備などの他にナースステーション内でトレーの洗浄や冷凍庫の整理、ポット洗いなどの作業もしています。
主に消化器内科、呼吸器内科の患者さんが入院している病棟で、患者さんともお話しをしながら、元気いっぱいに活動しています。傾聴ボランティアも活躍している病棟です。

**ボランティア　櫻井恭子**

清拭車の準備をしながら患者さんとお話しをしたり、運動も楽しんでいました。手のひらにはツボが密集しているのでタオルを軽くこすると脳の血流が上がり、脳の老化予防改善効果があります。

**看護師　森川美香**

これからも患者さんのお散歩など、いつもの笑顔でお願いします。楽しみにしています。

# 5A病棟

成人病棟のボランティアの受け入れでもっとも歴史の古く、主に脳神経外科の患者さんが入院している病棟です。タオルたたみ・テープカット・ビニールたたみなど、丁寧な作業を心掛けてくださっています。

ボランティアの人数が一番多くベテランさんの多い活動場所です。コロナ禍では他の病棟のボランティアも加わり、一致団結して病棟を支えてくれました。傾聴ボランティアも活躍している病棟です。

**ボランティア　中村和子**

病院スタッフの皆さんの熱意が、私たちボランティアを動かしていると感じます。私たちの小さな動きが患者さんへつながること、その喜びが大きな力となって返って来ています。

**看護師　風間瑞貴**

テープカットや縫い物など、ボランティアさん達がいなければ、病棟が回らないです。
毎日ありがとうございます。

# 5B病棟

整形外科の患者さんが入院している病棟で、５A病棟の次に受け入れの長い活動場所です。タオルたたみ･環境整備の他、病棟のスタッフと様子を確認しながらお茶入れもしていました。患者さんと関わることのできる活動をしています。いつも明るく元気で、個性豊かなメンバーが揃っています♪

**ボランティア　大下利基**

患者さん、病院のスタッフの皆さんから「ありがとう」の言葉をいただいた時は嬉しかったです。病院の前を通るたび、5Bの窓際を見上げます。

**看護師　高月結奈**

整形の患者さんは手術が終わると元気な方が多いので、話し相手になっていただいたり、いつも笑顔で活動してくださっています。本当にありがとうございます。

# 6A病棟・6B病棟

**6A**：タオルたたみ･清拭車準備などの活動の他に手すりやデイルームの拭き掃除などもしています。主に循環器内科、糖尿病・内分泌内科の患者さんが入院している病棟で、いつも笑顔で元気に、丁寧な作業を心掛けてくださっています。

**6B**：2017年4月より新しく活動が開始しました。清拭車の準備･タオルたたみなどの作業をしています。病棟からの要望に応じてフェイスシールドのフィルム付けやビニールの紐通しの作業などもしてくださる頼もしいボランティアさんに助けられています。

**ボランティア　能々百合子**

テープカットやおむつたたみをしています。スタッフさんからの「助かります」の一言は、何故かとても得した気分になり嬉しいです。このような時間が持てる事に感謝です。

**看護師　塚崎世利**

いつも丁寧な作業をして下さっていたとスタッフから聞いています。また病棟で皆さんにお会いすることを楽しみにしています。

# 7A病棟

主に泌尿器科、腎臓内科などの患者さんが入院している病棟です。見晴らしの良い最上階で、病棟も広くゆったりした空間の中、タオルたたみ･清拭車の準備やノートの写し作業などいつも笑顔で活動しています!! 病棟のスタッフとも気持ちよく挨拶を交わしています。

**ボランティア　登玉郷子**

7Aで活動中、西側の窓から見える尖った山を「秩父の武甲山」と入院中の患者さんに教えていただきました。“武甲山”覚えました!!

**看護師長　富田ゆり子**

ボランティアの皆様、いつも大変お世話になっております。私達看護師や看護助手にも優しく接して頂きありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

# 傾聴ボランティア

患者さんやご家族に寄り添い、じっくりお話に耳を傾ける傾聴ボランティア。2008年から5病棟（脳神経外科）で、この活動が始まりました。

## 傾聴ボランティア活動日誌より

■（70代女性）軽い脳出血で入院。姑さんを見送って色々ストレスが溜まっていたけど、ご主人の耳が遠くて話を聞いてくれる人がいなくて…と。次から次へと途切れることなく話されて、自分でも話したくて仕方ないとのこと。疲れないかちょっと心配しました。

■（50代女性）身体は少しずつ良くなってきているのだけど、気持ちがイライラして自分でもどうしようもない。机を叩いたり、声を張り上げたり、叫んだり…もって行き場が無いと。側に行くと涙ぐんだり…私も同じ立場だったら同じことをするかも。

■（70代女性）話を聞いてくれる人がいて、身体の痛いのを忘れてすっきりしたと、とても喜んでもらって嬉しいひとときでした。

## 活動の広がり

5A病棟で定着した傾聴活動は、その後4B病棟（消化器内科等）にも広がりました。認知症状のある患者さんと車椅子でお散歩しながらお話するなど、多忙な職員のサポートもして下さっています。

■どの活動も助かるが、特に傾聴ボランティアさんがいると、お任せして他の処置に回れていました。（看護師）

■傾聴ボランティアさんに話を聞いてもらえると、普段落ち着かない患者さんもその時は落ち着いていました。（看護師）

# 傾聴講座の開催

2017年（3月、5月、7月、8～9月、10月）臨床心理士の田熊さんに講師を依頼、20名のボランティアさんが参加しました。「患者の気持ちの受止め方のポイント」を学び、実際に入院されている患者さんとの傾聴体験もさせていただきました。病棟だけでなく、外来、サロンあらゆる活動に活かされていると思います。

**ボランティア　今井朝子**

話をしてくれない患者さんにどう接したら良いか？悩んだ時期もありますが、自己紹介をさせていただいているうちに、故郷の話や絵手紙の話で盛り上がることがあります。相手の様子を見ながら自然に話せる様になってきました。

**臨床心理士　田熊喜代巳**

傾聴講座でボランティアの方々とご一緒しました。皆さん、誰かの役に立ちたいという思いがとても大きく、その姿勢から、人の思いを聴く事の原点に立ち返る事ができました。これからの活動も応援しています。

# 図書ボランティア

皆さんからいいただく寄贈本にラッピングをし、ジャンル別に整理します。ボランティアルーム・外来・病棟用に本を選び、外来の図書コーナーには本を並べたラックを設置します。１F～２Fフロアの巡回時には「ただで借りれるの？」と本を手に取って下さる方も多いです。病棟デイルームの本棚は、月に1度すべての本の入替えを行いますが、本好きの患者さんから「ここにある本は全部読んじゃった！」と言われた時は驚きました。

**ボランティア　小野寺操**

患者さんやご家族が、沢山の本を借りてくれたり、子どもさんから「面白かった！」と言ってもらえた事がとても嬉しかったです。

**渉外課　新井隆史**

本の種類も選別されていて、利用されている方をよく見かけます。院内のアメニティが少ない中、患者さんの気分転換や、待ち時間対策につながっています。

# 縫い物ボランティア

ドレーンバック

裁縫上手なボランティアさんには、病棟で使う医療用クッションのカバーや、計測器のホルダー、小児用の術着など、様々な物を縫っていただいてます。実際に使われている場面を見る事ができないなか、少しでも患者さんやスタッフが助かるようにと、丁寧にしっかり仕上げてくれています。

**ボランティア　星野正子**

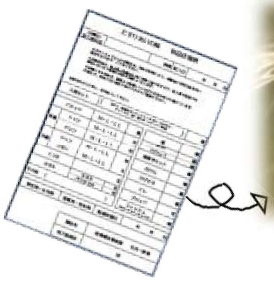
色々と工夫する楽しさがあります。病棟でお役に立っているとの言葉はとても嬉しいです。

**産婦人科師長　酒井明美**

元気に産まれてくることができなかった赤ちゃん達に、天使のお洋服を縫っていただいてます。心温まるベビー服を作って下さり、本当にありがとうございます。

# たすけあいの輪

ボランティアグループ「たすけあいの輪」は、衣類や日用品の寄贈を募り、単身者やホームレス、急な入院でお困りの方、また外来で着替えが必要になった方等に物品を提供する活動をしています。頂いた衣類を季節ごとに入れ替えたり、ズボンのゴムを入れ直したりと、保管状態にも気を配ってくれているので、病棟などから依頼があった際もスムーズにお渡しすることができています。



「物品依頼票」が届くと、ボランティアさんが必要な物をまとめ、病棟などに届けてくれます。

・ホームレス支援
・施設へのウエスの提供
・震災支援
・衣類の補修
・必要物品の買い出し
等々、病院と協働し、院内に留まらず地域ともつながりながら、幅広く活動しています。

**ボランティア　福地静枝**

木曜メンバーを中心に、活動の枠を越えて立ち上げました。はじめは手探りでしたが、コーディネーターの伊藤くんや古川さんが底上げをしてくれたので、進めることができました。みんなでお花見や忘年会、カラオケなどにも行きました。様々なボランティアさん達との結びつきができて楽しかったです。

**ボランティア　加藤繁代**

コロナで殆どの活動が中止になりましたが、病院から要請があり、1年半ほど前から熊谷さんと衣類の整理を始めました。昨年の夏、ボランティアルームの引越し為に行った衣類の整理や、不用品処分の大変さが、一番の思い出になっております。こうして病院のお役に立てていることは、ボランティアとして幸せなことです。

**ソーシャルワーカー　大園あゆみ**

緊急入院で退院の際に衣類がない！入院が長くなってしまい、季節とは違う衣類しかない！という時にお世話になっています。患者さんからも「普段自分では選ばない服だから嬉しい」「服を届けてくれる身内がいないので助かる」とのお声をいただいています。たすけあいの輪さんの服を着て笑顔で退院されていくと私も嬉しいです。

# 音楽ボランティア♪

## ハモニカ風あそび♫

成人病棟デイルーム(4F・6F)にて月1回季節の歌を中心にハーモニカ演奏を開催♪お揃いのTシャツを着て、楽しいトークや手話なども交えて和やかな場を作っていただいています。西館のサロンなどでも演奏しています。

**患者さんからの声**

入院していて演奏聴けると思っていなかった。一緒に歌って声を出すと元気が出ます。

## ギター演奏♩

成人病棟デイルーム(4F・6F)にて月1回クラシックギターによる演奏を開催♫曲は季節の歌や民謡、映画音楽、演歌などリクエストにより、さまざまなジャンルの曲を演奏しています。チェロや電子ピアノの演奏などもありました。

**ボランティア　荒井信行**

ゆったりとしたチェロの旋律は病室にいる患者さんにも感じて頂けたのではないかと思っています。

**患者さんからの声**

曲にあったアルハンブラに行ったことがあるのよ、若い時に･･･その頃を思い出すわ、嬉しい♪

## オルフェウスの会♫

オルフェウスの会は病院にオルゴールが寄贈されたことにより病院職員とボランティアとの協働で2002年に発足されました。外来にて、オルゴールとハーモニカのミニコンサートを開催。毎月ゲストをお招きし様々な音楽を患者さんや地域の方にお届けしていました。

皆さんから楽しかった、心が安らいだとの声を力に行ってきましたが、200回を越え2019年6月をもって休止することとなりました。

# 講座(入院患者さん対象)

## トールペイント講座

成人病棟デイルーム(4F･7F)にて2か月に1回、患者さん及び家族の方を対象に開催しています。

ヨーロッパの伝統的装飾技法を土台にして、木･ブリキ･ガラス･陶器･布などあらゆる素材に絵を描きます。講師とのトークにも花が咲き、あっという間の1時間です!!

**ボランティア　藤澤恵子**

この時間（トールペイント）に集中している時だけ病気のことを忘れられた、と患者様が言って下さった時は嬉しかった。

**患者さんからの声**

・スタッフ、先生方がとてもやさしく楽しく過ごす事ができました。
・おしゃべりしながら楽しかったです。

患者さんの作品 メガネケース

## 絵手紙講座

成人病棟デイルームにて年3回、患者さん及び家族の方を対象に開催しています。書いて楽しく、もらってうれしい絵手紙!!ふじの会のメンバーが丁寧にお手伝いします。毎回たくさんの方が参加して喜ばれています。

**ボランティア 大野澤昌子**

絵手紙を交換している時にそばにいらして楽しそうに色々とお話してくださる患者さんやご家族の方、外の風を少しでも院内に運ぶことが出来たかなと嬉しく思いました。

**ボランティア 野ケ山京子**

病棟に掲示してある絵手紙を見た患者さんの落ち着いた表情を見れた時、とても嬉しく思いました。

**患者さんからの声**

病院内ですばらしい体験をさせていただき良い思い出になりました。身体の具合が悪い時には、あたたかい言葉が1番の薬です。ありがとうございます。

毎月、定例会及び外来や病棟の絵手紙の張り替えを行っています。7階の病室の入口には絵手紙が掲示されていて、患者さんの和みになっています。各病棟のナースステーション近くにも掲示しています。

# 活動をサポート

当院ではボランティア活動の受け入れ、活動の推進、スキルアップのために様々なサポート体制があります。ボランティア活動が30年間継続することができたのは、このような体制づくりが出来ていることも理由のひとつだと思います。

## ボランティアルーム

**ボランティアルームでは･･･**
活動しているボランティアさん、活動の始まりや終わりにボランティアルームで身支度をしたり、本を読んだりと、ボランティアルームは交流や休憩の場所として利用されています。
テーブルを囲み和やかにおしゃべりをしたり、お茶をしたりもします。それぞれ活動場所は違ってもボランティアの仲間同士、みんなの居場所となっています。

2022年5月21日～22日
以前ボランティアルームのあったビルの老朽化による建て替えのため、ボランティアルームの引っ越しが行われました。以前はなかった窓のある明るい部屋となり、ボランティアさんの笑顔溢れる空間です！

## ボランティア委員会

当院では隔月でボランティア委員会を開催し、看護部長を委員長として各病棟の看護師にもメンバーとして入っていただき、ボランティア活動推進のために協議しています。
在宅支援ボランティアの立ち上げにあたっては、講座の開催やデイルームでのほっとサロン開催などを協議し、活動の実現に繋げました。
コロナ禍では無理のない範囲で出来ることを検討し、活動の維持、継続を図りました。

ボランティア活動助成金は、支給について委員会にて検討されています！

# 病院ボランティア体験入門講座

当院のボランティア活動に興味を持たれた方に体験を通じて魅力を伝え仲間を増やそう!!という講座です。地域の方に病院のことを知っていただく機会としても考えています。

病院ボランティアに関する講座や外来や病棟など、病院内での体験や見学、活動中のボランティアさんとの交流など、ボランティア活動の推進するために、ボランティアと病院が協働してさまざまなプログラムを用意しています。

外来ボランティア見学

小児科ボランティア
活動紹介

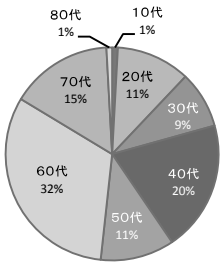
車いす体験

**講座受講者の声**

・病院側のボランティアの方への理解があり、ボランティアの方々が楽しんで明るく活動されていることが分かり、とても良い経験になりました。
・いずれ皆さんのように患者さんに寄り添えるボランティアになりたいと思います。
・活動しているボランティアさんの笑顔が素敵で皆さんいきいきとされていて、私も是非活動させていただきたいと思いました。

**わたしはどこで活動しようかしら?**

平成25年6月度(第15回目)～平成30年6月度(第27回目) 計116名 受講者統計




■年齢

60代・70代が約半数を占めています

【ボランティアアンケートより】
ボランティア活動を始めてご自身が変わったことはありますか？
１位　生活に張り合いが出た
２位　自分が元気になった
３位　色々なことに興味が持てるようになった

**体験入門講座では･･･**

講座参加者の受講のきっかけはさまざまですが、病院ボランティアに興味はあるけれど、やはり不安･･･という方も講座を通じて「これならできそう」と実感いただき、多くの参加者が活動に繋がっています。そして、ここで出会ったことがきっかけでお友達になっていくこともあるようです。また、みんなで話し合いながら、新しい活動が始まったりすることもあります!!

# ステップアップ講座

活動しているボランティアさんのスキルアップを目的とし、毎年様々なテーマでステップアップ講座を開催しています。

## 感染対策講座

感染対策は患者さん及びボランティアさん自身の安全を守る為に非常に重要なものと考え、毎年開催しています。

講師は感染管理室 千葉師長。基本的な感染対策に加え、手洗い方法、マスクの正しい使用方法などのお話しをいただいています。

**【ボランティアの声】**

・活動中だけではなく日常生活でも役立つ講座でした。

・初心にかえって知識の再確認ができました。動画配信の利点は自由な時間に受講できるところだと思います。何度でも見ることができるので安心です。（2021年度はYouTube動画配信 ）

## 交通安全教室

徒歩や自転車を利用しているボランティアが多いことから、交通安全教室を行いました。

講師は川口市交通安全対策課交通教育係。交通事故状況、認知機能や身体機能についてのお話しや映写・実験・ゲームなども交え楽しく交通ルールを学びました。

**【ボランティアの声】**

改めて、自己判断の乗り方の怖さが分かり気を付けなければと思いました。

## 接遇講座

病院を利用される方々が安心できるような声がけや接し方について、一緒に考える講座です。講師は産婦人科病棟の成川師長（当時）や酒井師長。

病院に来ている人の気持ちを踏まえて、最低限持ち合わせていたい接遇スキルについて確認しました。

**【ボランティアの声】**

接遇とは相手のことを想う気持ちが大切だと思いました。相手を大事に想い接することで自分も沢山受け取るものがある事が分かりました。

## 手足浴講座

より主体的に患者さんと関わることができる活動として手足浴ができないかとの声から実施しました。看護師のレクチャーを受けながらする側・される側の両方を体験しボランティア活動としての可能性を感じました。ただ残念ながらその後活動メニューとしては結びつかず…。時期を見て再度検討ができればと思います。

**【ボランティアの声】**

とても気持ち良かったので患者さんも喜ぶと思うが、実際はハードルが高そう。

## 認知症体験講座　於：特別養護老人ホーム彩光苑

実際の入所者の方との交流を通し、傾聴の大切さや難しさを感じる方も少なくなかったようです。終了後は施設の近隣にあるお店でジェラートを食べ親睦を深め・・・大人の社会科見学のよう。

**【ボランティアの声】**

認知症について学びを深めることができました。また入所者の方の交流を通し、接する難しさも感じましたが、皆さん笑顔で迎え入れてくれて嬉しかったです。

## 外部研修

| | |
|---|---|
| ○孤立防止地域フォーラム | 2013年7月31日(水) |
| ○孤立防止フォーラムinさいたま | 2014年9月22日(月) |
| ○高齢者サービスにおける音楽療法セミナー | 2015年2月20日(金) |
| ○関東地区病院ボランティアの集い | 2016年5月17日(火) |
| ○関東地区病院ボランティアの集い | 2017年6月15日(木) |
| ○日本病院ボランティア協会　オンライン交流会 | 2022年3月12日(土) |
| ○日本病院ボランティア協会　オンライン交流会 | 2022年6月07日(火) |

# ボランティア交流会

ボランティアさんへの日頃の感謝と労いを込めて年1回、開催しています。ボランティア同士や普段は接する機会の少ない職員との交流の機会も兼ねています。

**～交流会の内容～**

活動報告、活動表彰、新しいボランティアの紹介、歓談をしながらお食事、グループミーティング、演奏＆合唱など

**ボランティアの声**

- お友達も出来て大変良かったです。
- 皆さん元気で笑顔が素晴らしかった。元気をいただきました。
- 日頃お会い出来ないボランティアさんと話ができて、有意義でした。

**スタッフの声**

- なかなか会う機会の少ないボランティアさんの色々な活動を知ることができて良かったです。ボランティアさんに感謝です。
- ボランティア活動がますます広がっているようで嬉しく思います。

# 灯り

病院を訪れる方々のなかには、さらに重い病を抱え、試練に見舞われている患者さんやご家族が少なくありません。わたしたちは、そうした不安や孤独にある方々の「心の扉」をたたき、「灯り」をともさせていただく。はじまりは、ささやかな「灯り」であっても、一つ、また一つと「灯り」の輪が広がってゆく。ボランティアの心は、そうした「一人ひとりの心に、灯りをともす」活動と言えるかも知れません。そして、わたしたちもボランティア活動を通して「灯り」をともしていただいてきた・・・この「ボランティアの心」は、済生会創立の精神「施薬救療」とも重なるものです。わたしたちはこの心を携え、活動に向かうことを大切にしてゆきたいと思います。

済生会川口総合病院　ボランティアコーディネーター

**ボランティアオリジナルバッジ【灯り】**

200時間表彰のボランティアさんに配布しています

# 済生会の取り組み
## ～ボランティアとのつながり～

## なでしこプラン

済生会では、保健・医療・福祉サービスに加えて地域に根差した独自の生活困窮者支援「なでしこプラン」を実施しています。
当院では、医療費の支払いが困難な方へ無料または低額な料金で診療を行う事業(無料低額診療事業)の他、様々な事業を行っています。その中でも下記の事業はボランティアさんと共に活動しています。

暮らしの保健室

ホームレス巡回相談

難民児童インフルエンザ予防接種

健康講座

詳しくは、済生会川口総合病院のホームページをご覧ください！
ボランティア活動についても載ってますよ☆

## 済生会
## ソーシャルインクルージョン推進計画

ソーシャルインクルージョンとは、社会的に弱い立場にある人々を含むすべての人が地域社会に参加し、共に生きていく、さみしい思いのする人を減らすという理念です。
全国の済生会各施設の取り組みや計画をまとめ、ソーシャルインクルージョンの考え方が浸透し実現する社会を目指すものが、ソーシャルインクルージョン推進計画です。

ボランティア活動では住民の交流・社会参加支援として以下の項目が計画に盛り込まれています。

- ボランティアステップアップ講座
- ボランティア体験入門講座
- ほっとサロン
- ボランティアコーディネーター通信
- 地域支援ボランティア

シンク！
済生会が推進するソーシャルインクルージョンについて知ってもらうためのホームページがあります。ぜひチェックしてみてください☆
当院のボランティア活動についても紹介されてますよ☆

# 季節の香り いつも

毎号「ふじの会」からは季節感いっぱいのすてきな絵手紙が届きます。
私も描いてみたい、そんな気持ちにもなりますがどうでしょう？ムリムリと言われてしまいそうですが…。

絵手紙ふじの会　若林峯子

## いい季節、歩かなくっちゃ

### 川口市内観光ルートマップ

川口市経済部産業振興課から出されているルートマップ（たくさんあります。）がとても参考になります。ここでは No.10 安行・峯コースを紹介します。
植木の里・安行で森林浴、蛇造りや貝塚など文化遺産も見ものです。このコースは、「新日本歩く道紀行 100選」の「ふるさとの道」に「植木のさと安行の緑・花卉をたどる道」が選ばれました。

スローライフの里をゆっくり歩こう

スタート　川口緑化センター
↓ 0.9km（11分）
イチリン草自生地
↓ 1.2km（14分）
密蔵院
↓ 0.9km（11分）
安行原の蛇造り
↓ 0.5km（6分）
新郷若宮公園
↓ 0.7km（9分）
ゴール　峯ケ岡八幡神社

密蔵院　安行桜のトンネルの参道

万葉植物苑　ふるさとの森

イチリンソウ自生地

ボランティアが発見し、努力して自生区域を広げてきました。

ボランティア

# かわら版 28

2023・3・28

済生会川口総合病院

## ボランティア活動 30年の歩みとその実り

久し振りの「かわら版」です。

済生会病院におけるボランティア活動も30年になるそうです。20年史「灯り」を手にした時のうれしさは今も胸にありますね。私たちの活動は更に10年の年月を重ねました。

「かわら版」創刊号の最初の見出しは、「小さな一歩を大きな実りに」でした。今ふり返ってみてどうでしょう。どなたの胸にもあるのは「そう、がんばってきたわ。」という自負にも似た気持ちではないでしょうか。







来院される方々や入院中の皆さんの笑顔が私たちにとっては何より嬉しいこと、どなたのお困り事にもていねいにやさしく対応することを大事にした三十年だったと思います。

コロナ禍という、思いもよらぬ状況で活動に差障りが生じていますが、これにめげることなく、また笑顔でみんなが会い、おしゃべりし、楽しく活動を続けていきましょう。

まもなくその日が来ると信じて…。



アカリちゃん

## 支援してくださる皆様



医療福祉事業課の皆様

済生会病院のボランティア活動を質量共に支えてくださっているのは医療福祉事業課の皆様です。健康面での心配りや活動に必要な助成金の支給、新しいボランティアさんの募集など、常に活動の充実と発展に力をつくされています。とても話しやすく、いろいろ相談にものっていただけますよ。

当院でボランティア活動が始まって30年。病院の中だけでなく地域へと活動を広げています。様々な社会状況の中でも人と人との繋がりを大切に、ボランティアとして出来る事は何だろうか？と今回、ボランティア活動30周年企画として「地域支援活動を語ろう会」「病院長座談会」を開催しました。

# 地域支援活動を語ろう会！

**～　開催の経緯　～**

「地域支援」と聞くとみなさんはどのような活動を思い浮かべますか？ボランティアさんへ行ったアンケートでは、これからしてみたい活動として1番多かったのが「地域支援活動」でした。そのため、地域の現状や済生会ソーシャルインクルージョン推進計画などについて学び、病院ボランティアとして出来ることはなんだろうか？と、これからの活動について語り合う会を開催しました！

**横曽根地域包括支援センター　奥山所長**

いくつかの事例より、いわゆる支援困難な方が地域には増えている。その背景にあるのは社会的孤立であり、地域で出来ることは何だろうか。例えば地域の中でSOSをキャッチしてくれる場を増やすこと、それにはすでにある社会資源を活かしていく、ボランティア活動もその一つ。「ひとりぼっちをつくらない」ために地域包括支援センターは社会資源をつなぐ支援を得意としています。

**八木橋課長**

地域包括ケアシステムと済生会ソーシャルインクルージョン推進計画について。ボランティアは地域をつなぐ存在であり、当院では地域との架け橋としてボランティアのみなさんに活動いただいています。

**ボランティアコーディネーター石川**

当院でのこれまでのボランティア活動の中で、地域支援活動として行ってきたものの振り返りを行いました。たすけあいの輪やほっとサロン、図書ボランティアなど様々な活動を通じて、病院と地域、ボランティアは繋がりをつくっていました。

## 地域支援活動についてのお話を伺った後、グループディスカッションを行いました。

テーマ
「地域支援活動について、ボランティアとして出来ることは何だろう？」

### ボランティアさんからの声

包括支援センターの講演を参考にして、今後の活動を頑張りたいと思います。

人と人との接し方、いつも笑顔が大切。ほっとサロンの再開を望みます。

初対面の方達が私自身の知らない活動をされていることに感動がありました。

またほっとサロンが再開した時、来て下さった方に知り合いや友達など新しい方を連れて（誘って）来ていただくという広げ方、とても良いと思いました。

いろいろなお話が出て勉強になりました。集まれる場所が必要ですね！

子ども食堂が増えている。子ども支援が必要ではないか。

近所の方に声をかけてサロンや集まりなどに誘っていくのが大切。

## 地域支援活動を語ろう会を終えて

よりよい地域づくりのために、皆さんの持っているつながりを活かし、地域の輪を広げていく。すでにあるものを活かしながら、出来ることをやっていこうよ、という皆さんの思いが湧き上がっていたと思います。

もう一歩、地域へ踏み出してみる。

ボランティアとして、無理のない範囲で訪問活動をしていくことによって、人と人、病院と地域をつなげていくことができる。ボランティアだからこそできる、地域支援の可能性。 例えば町会や老人会、近所のお知り合いなどで気になる方がいたら情報を持ち寄り、サロンや健康講座にお誘いしてみる。外出が難しい方であれば、見守りや傾聴、簡単な生活のお手伝いをさせていただく。
いきなり始めることはできないので、これから皆さんと具体的な活動を考えていく場を持ちながら、一緒に地域支援活動の仕組みをつくっていきましょう！

# 病院長座談会

**～　開催の経緯　～**

新型コロナウイルスの影響によりボランティアさんと病棟とのコミュニケーションが取れなくなっている事や、ボランティアさんへ行ったアンケートでは病院の状況が知りたい、私たちの活動は必要なのか、という声があがったことから、ボランティア活動30周年企画として病院長座談会を開催する事となりました。

**～　座談会の目的、願い　～**

ボランティア活動30周年という節目に、病院長、看護部長をはじめ病院職員とボランティア、コーディネーターの三位が揃い、これからの活動の方向性を見出すことのできる場を作りたい。

**テーマ**
「病院をより良くするために共に目指すこれからのボランティア活動」

・ボランティア（敬称略）

| | |
|---|---|
| 阿部輝代子 | 今井朝子 |
| 大野澤昌子 | 笠沼洋子 |
| 加藤繁代 | 河野三重子 |
| 佐久間清 | 内藤武子 |
| 茂木智恵子 | 山口栄子 |

・職員

| | |
|---|---|
| 病院長 | 佐藤雅彦 |
| 看護部長 | 名古屋恵子 |
| 3B子ども療養支援士 | 藤川由紀子 |
| 4A看護師 | 利根山香織 |
| 5A看護助手 | 伊藤恵美 |

・ボランティアコーディネーター
八木橋克美、小西舞羽、野澤澄江、手川美和

## 座談会の内容

### 八木橋課長

今日は、これからの10年を病院の職員をはじめ地域のボランティアさんと語り合っていこうということで、集まって頂きました。**座談会のテーマは「病院をより良くするために共に目指すこれからのボランティア活動」**。こんなことができたらいいなとか、こんなボランティア活動してもらいたいとかを考えていければと思います。

### ボランティア阿部さん

活動記録のノートに「子供達に怖い話ししてくれとよく言われる。遊びの中では身勝手な子も集中した良い顔で聞いている。様々な話の最後にだから君たちは良い人になるんだよと言うと真剣な表情で頷いた。思わず**胸がいっぱいになる**」って書いてあるんです。どこの病棟でも同じかもしれないですけれども、**活動での出会い**が本当に嬉しいです。

### ３Ｂ　子ども療養支援士 藤川さん

コロナ禍当初、親御さんは子どもに会えないということですごく不安に思われる方がたくさんいて、ボランティアさんはいないのと言われることがありました。お母さんたちは**ボランティアさんを必要**としているんだなと驚きました。

今日久しぶりに皆さんにお会いしてすごく**元気をもらっている**ので、是非その元気を患者さんやご家族にもかけてくださると嬉しいなと思います。

### ボランティア佐久間さん

今までは4 B 病棟で車椅子を押しながらお話をしていましたが、最近は足も耳も衰えてきたので、これからを考えると少し広い部屋で患者さんと対面しながら、**ゆっくり話をする**のは可能かなと思っています。

病院ボランティアは特有なところがあると思うんです。患者さんから病棟に対するマイナスな話などを聞くんですが、その話をどうすればいいのかというのが難しいなと思ってます。

### 名古屋看護部長

患者さんがおっしゃることでもし看護師や職員のことであれば、師長さんに伝えてもらっていいと思います。関係性の中で感じることだと思っておりますけれども、でも患者さんがそう思ってることであれば言ってもらって、必要なフォローが入れば少し患者さんの気持ちが落ち着いたりすることもあると思います。

### ボランティア茂木さん

ボランティアをしている時思うことは、**患者さんは不安に思うことはなかなか言えないという事。**少しお話するとたいていの方が不安なことをつぶやいてくれるのでいつも**よく聞く**ようにして、そういうのってすぐ解決できないと思うんですけれど、いつも重要だと思っています。

### ４A看護師利根山さん

看護師はすごく忙しく、どうしても患者さんの話を聞くのが後になっていて辛い。本当は私たちがゆっくり聞きたいけれども、そこで**ボランティアさんにベッドサイドでお話を聞いてもらう**と、**患者さんも癒される**と思う。職員には遠慮して話せないことなどもあると思うので、ボランティアさんに力になってもらえたらと思います。

### ボランティア加藤さん

地域の高齢者宅へ民生委員の活動で訪問すると、どこの方でも「何で済生会は**サロン**をやっていないのか」と言われる。コロナ禍で開催が出来ていませんが**、お年寄はお話がしたい**んだと感じています。

### ５A助手伊藤さん

患者さんとの同年代のボランティアの方が隣にいて話をして、そんな時患者さんは**私たちに見せたことのないようなほっとした笑顔**で盛り上がっていました。

資材作りに来てくださっていたボランティアさん達も病棟内を徘徊してしまう患者さんと一緒にタオルを畳んでくださったり、お話を聞いてくださったり、本当に**頼りになる存在**です。一日も早く戻ってきていただきたいと心から願っています。

### ボランティア大野澤さん

小説を読んでCD にして識字障害の方や入院中の患者さんに届けるのはどうか。それからボランティアルームからリモートで、子どもたちに折り紙今日は何を作ろうかとか、そうやって**オンラインを活用して触れ合う**ようなことができるのでは。

お互いが**サポートをしながら全体を盛り上げていく**ということができるんじゃないかなと思いました。

### ボランティア山口さん

外来職員は呼ばれるとすぐに行かなければならない。**再来受付機あたりにボランティアが何人かいたら**色んな対応ができるなと思う。

病院では**リモート面会**を導入しているとの事で、そこを**ボランティアでサポート**できることがあるんじゃないかと思います。

### ボランティア河野さん

患者さんで朝から夕方まで待っているという方がいらっしゃるので、何気なく声をかけられるような**ボランティアが外来にいると、患者さんの気持ちも少しは違う**と思う。

院長先生には是非ボランティアを大事にして頂ける病院と言われるようになってほしいなと思います。ボランティアさんの年齢は高くなってきているのでこれからは**若い人も入れるような**何か仕組みが必要かなと思います。

### ボランティア笠沼さん

外来で感じるのは、患者さんは心配事を抱えていたり、病院の敷居も高く感じていたりと色んな事を抱えながら来ていらっしゃる。そこで少しでも**笑顔**があったり、ボランティアと触れ合うことで**ホッとするような気持ち**で、少しリセットされて治療に集中できたらと思います。

### ボランティア今井さん

傾聴をさせて頂いて、患者さんはただ**そばにいるだけ**でも涙ぐんでしまったりすることがあった。

**サロン**に来ていた地域の方から、寂しくて早く何とかならないかとお話をいただくのでサロンの方も早く出来ればなと思っています。

### ボランティア内藤さん

済生会の**小児科病棟**でのボランティアは自分の中で重点を置いてきたなと思っています。

また、ボランティアしてあげてるじゃなくて、**させていただいているという気持ち**を持ち続けたいと思っています。活動に参加できることを幸せに思いながら続けていきたいと思っています。

**名古屋看護部長**

自分の活動が人の役に立っている、そして逆に元気をもらうということが**皆さんのやりがい**になっているんだとすごく感じています。

入院患者さんと家族のリモート面会というのを実は2年前から設定したんです。場所も確保して、だけどマンパワーが全然足りなくて本当に一部の病棟でしか出来ていない。認知機能が低下している人とかはやっぱり家族に会いたい、家族と話すことで元気になるということがあるので。リモート対応に看護師2人必要なところをボランティアと看護師1人ずつで対応していけたら、認知症の方などの面会なんかも可能になるかなと思っています。読み聞かせとか紙芝居とかももしかしたら **オンラインで発信**できるのかなと皆さんの話を聞きながら考えていました。

それから、**病棟にもっとボランティア**さんが入ってもらいたいと思っていて、患者さんが寂しい思いをしていてもそこに看護師が忙しくなかなか寄り添えないので、傾聴のボランティアさんとか傾聴できなくても**そばにいてもらえる**とか、散歩は外までは無理だけど病棟のフロアの中で少し景色の良い所に車椅子で連れて行ってもらってそこに付き添ってもらうとか、そういうのでもすごく十分だと思う。後はサロンの話が出ましたけどおしゃべりがみんな好きなんですよね、おしゃべりをすることでリラックスしたりちょっと愚痴を吐いてみたりしながら、また**元気になる場所**がやっぱり**サロン**なのかなと思っているので、やっぱり**ボランティアさんたちの数**も必要だと思う。**若い人たち**も入ってもらえるような、病院でボランティアをすることの楽しさだとかやりがいを感じてもらえるようになっていけたら。

今日みなさんと実際に対面して声を出してやり取りをする、これがやっぱり一番大事かなってつくづく思いました。

当日の様子

**佐藤病院長**

ボランティアの皆さんには、例えば外来で車椅子を押したり案内をしている中でも患者さんと色んなお話をされてると思います。看護師は業務で忙しく、患者さんの話を聞きたいんだけど聞く時間もない。そこでぜひ皆さんに活躍していただける場を、そろそろ**外来だけでなくて病棟で活躍**していただきたいと思っています。コロナが完全収束するのを待っていたらずっと先になってしまいますので、ある程度安全だということが担保されれば早めに始めさせて頂きたいと思っております。

昨年度病院のビジョン、あるべき姿というのを作ったんですけれども、「選ばれる病院を目指す」ということでその選ばれるというのは二つの面があって、一つは地域の人たちから。当院は県南地域の川口・戸田・蕨の市民の急性期の医療を担うという使命がありますので、医療を提供するということで選んでいただいて治療をさせていただくというのがあります。もう一つが職員から選ばれる。職員に働いていて本当に良かったなと思ってもらえる病院、そして**ボランティアの方たちからも選ばれるような環境**を、これからもどんどん良くするように続けていきたいと思っております。

近年は100歳を超える方も多いですが、健康な寿命というのを長く維持するということが大切であって、体と頭を使うことがやっぱりコツだと思います。そういう点ではボランティアっていうのはすごくいいと思います。人に貢献するというのはやっぱり**幸せな気持ち**になると思いますし、同時に病院や地域にも貢献して頂けると思いますので、一石二鳥じゃなくて一石三鳥みたいな形になると思います。

今日は皆さんの話を聞いて、本当に再開を心待ちにしているというすごく強い気持ちを感じることが出来ました。本当に有意義な時間を送れたと思っております、ありがとうございました。

**八木橋課長**

患者さんとご家族が少しでも**安心して医療を受けられる**、そういった環境を作っていきたいというボランティアさんと職員の皆さんの**思いが一つ**になってるような感じがしました。

今まででは考えも及ばなかったオンライン、そういった活動も増えてきてるわけですし、やはりコロナ以前に戻ることではなくて、逆にこのコロナによってどれだけ人間の繋がりが喪失したことが大変だったか、**つながりの大切さ**を感じさせてもらえたということもありますので、可能性のあるこれからの10年に向かっていけるんじゃないかなと皆さんのお話を聞いていて強く感じました。ありがとうございました。

# ～病院長座談会をふりかえって～

2022年12月20日、無事に病院長座談会を開催することが出来ました。

30周年という節目の年に、様々な企画を通じてよりボランティアさんとの交流を深めていきたいと考えていましたが、感染状況などにより思うようにはいきませんでした。そのような中で開催することが出来た病院長座談会では、これから先の病院ボランティアをどうしていくのか、ボランティアさんと職員が互いに思っていること、願っていることを語り合い、方向性を見いだしていく大切な会であったと思います。

病院からは「患者さんのお話を聞いてほしい」、「寄り添ってほしい」、「地域のおしゃべりしたい高齢者の居場所作りを」という声がありました。これまで続けてきた病棟、外来、サロンを始めとしたボランティア活動が、コロナ禍を経ても変わらず、更に切実さをもって求められているのだと思います。また新たにオンラインなどITを活用し、病棟とボランティアさんを繋ぐ、患者さんへ届ける、という活動の可能性を感じることも出来ました。

「病院をよりよくするために共に目指すボランティア活動」というテーマで開催した病院長座談会は、ボランティアと職員の強く、熱く、希望のある思いがひとつになる場となりました。様々な可能性を秘めたボランティア活動がさらに発展していく事が出来るようこれからの10年に向けて取り組んでいきます。

ボランティアコーディネーター　小西舞羽

# ここから未来へ動き出す！

三十周年企画の「病院長座談会」を通じ、ボランティアさんの願いと病院のニーズは、同じ方向を向いているということが分かりました。また、「地域支援活動を語ろう会」では、人と人のつながりや居場所づくりの必要性が語られました。

**患者さんに寄り添った療養のサポート**をする、**居場所づくりを通じて地域をつないでいく**、そして一緒に活動する**仲間の輪を広げる**。温かみのある、地域から信頼される病院となるように、病院とボランティアが協働しながら、ここから未来へ動きはじめます！

## 療養サポート

日常の風を運ぶ

患者さんの癒し・和み

環境整備

患者さん・家族に寄り添う

見守り・傾聴

スタッフを支える

## 仲間づくり

体験してもらう

きっかけをつくる

共感・協働

魅力を伝える

自助・互助

一緒に考える・共に楽しむ

## まちづくり

住民の交流

居場所づくり

地域のコミュニティ

ほっとサロン

健康維持

こども支援

認知症サポーター

暮らしの保健室

# 済生会川口総合病院ボランティアの

# LINE公式アカウント

# を開設しました！

今回の30周年企画のひとつとして、ボランティア専用の公式LINEを開設しました。まずは当院のボランティアさんとコーディネーターのみで運用し、徐々に内容や対象の幅を広げていこうと考えています。

「こんなのあったらいいな」「こんな風にできるよ」等々、

感想やご意見もどんどんお寄せください。コーディネーターも勉強しながら、皆さんと楽しく活用していかれるように頑張ります！

## 配信内容

・活動に関するお知らせ
・コーディネーター通信
・活動の報告
・皆さんとの連絡　　など

## 友だち追加手順

①QRコードで登録

ホーム→友だち追加→QRコード読み込み

②ID検索で登録

ホーム→友だち追加→ID検索

@139vsmon

# 資料編

1.年表(2013年～2023年)

2.ボランティア活動状況

3.活動表彰実績

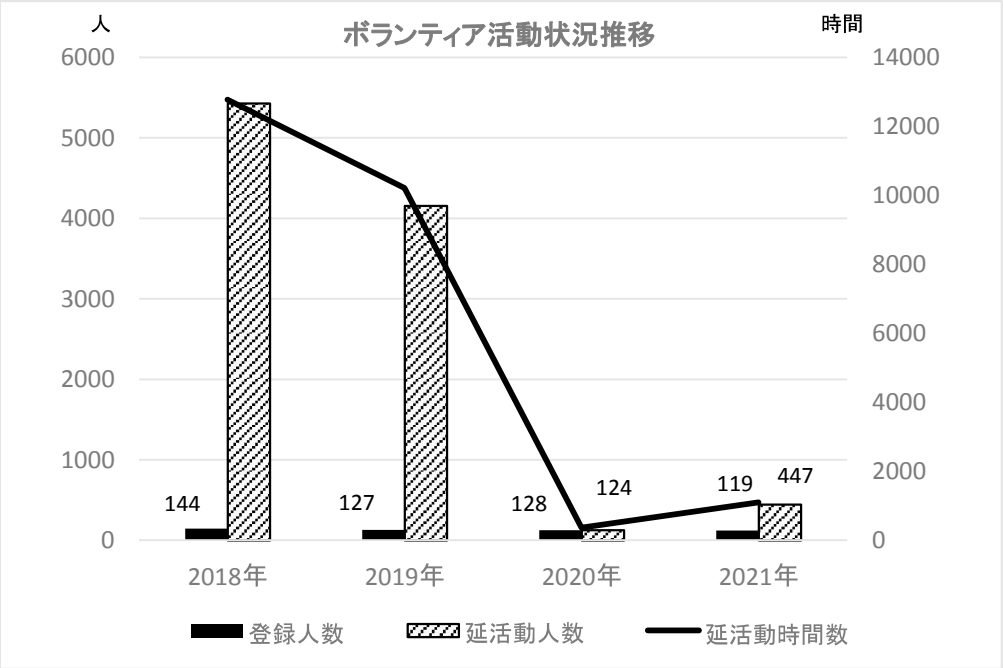
# 年表

| 年 | ボランティア | 病院 | 地域との関わり・社会状況など |
|---|---|---|---|
| 2013年<br>(平成25年) | (7月)「ボランティアかわら版」発行開始<br>「トールペイント講座」年6回<br>「ふじの会絵手紙講座」年4回<br>「ボランティア連絡会」年2回<br>「バイオリンミニコンサート」年2回<br>「定例会:3B・図書・たすけあいの輪」毎月<br>「外来・各病棟定例会」不定期<br>「在宅・サロン・傾聴Vo会議」不定期<br>「サロン」不定期<br>「オルフェウスコンサート」毎月第2火曜 | (2月)健康診断<br>(3月)「ボランティア交流会」開催<br>(7月)「川口市青少年ボランティアスクール」開催<br>ステップアップ講座(手足浴)<br>(10月)インフルエンザ予防接種<br>ステップアップ講座(認知症体験)<br>(11月)ステップアップ講座(認知症サポーター養成・感染対策)<br><br>「病院ボランティア体験入門講座」年2回 | (7・8月)<br>埼玉県社会福祉協議会主催の「孤立防止フォーラムin白岡」参加<br><br>(11月)<br>埼玉県社会福祉協議会主催の「施設ボランティア受け入れ担当者研修」参加<br><br>(12月)<br>横浜市立附属大学病院図書ボランティア見学 |
| 2014年<br>(平成26年) | (7月)「バイオリンミニコンサート」<br>「トールペイント講座」年6回<br>「ふじの会絵手紙講座」年3回<br>「ほっとサロン」年3回<br>「ボランティア連絡会」4回<br>「在宅支援ボランティア勉強会」年3回<br>「定例会:3B・図書・たすけあいの輪」毎月<br>「外来・各病棟定例会」不定期<br>「オルフェウスコンサート」毎月第2火曜 | (2月)健康診断<br>(3月)「ボランティア交流会」開催<br>(7月)「川口市青少年ボランティアスクール」開催<br>ステップアップ講座(手足浴)<br>(9月)ステップアップ講座(認知症体験)<br>(10月)インフルエンザ予防接種<br>ステップアップ講座(感染対策)<br><br>「病院ボランティア体験入門講座」年2回 | (9月)<br>埼玉県社会福祉協議会主催の「孤立防止フォーラムinさいたま」参加 |
| 2015年<br>(平成27年) | (9月)「バイオリンミニコンサート」<br>「トールペイント講座」年4回<br>「ふじの会絵手紙講座」年4回<br>「ほっとサロン」年9回<br>「在宅支援ボランティア勉強会」年8回<br>「定例会:3B:図書:たすけあいの輪」毎月<br>「外来・各病棟定例会」不定期<br>「オルフェウスコンサート」毎月第2火曜 | (2月)健康診断<br>(3月)「ボランティア交流会」開催<br>(6月)「在宅支援ボランティア講座」開催<br>(7月)「川口市青少年ボランティアスクール」開催<br>(9月)ステップアップ講座(認知症体験)<br>(10月)インフルエンザ予防接種<br>ステップアップ講座(感染対策)<br><br>「病院ボランティア体験入門講座」年3回 | (4月)<br>暮らしの保健室(戸山ハイツ)見学<br><br>(5月)<br>埼玉県社会福祉協議会主催の「社協及び社会福祉施設ボランティア担当者新任研修」参加 |
| 2016年<br>(平成28年) | (4月)「バイオリンミニコンサート」<br>「トールペイント講座」年6回<br>「ふじの会絵手紙講座」年4回<br>「ほっとサロン」年9回<br>「在宅支援ボランティア勉強会」年11回<br>「3B勉強会・定例会」毎月(8月除く)<br>「図書定例会」毎月<br>「オルフェウスコンサート」毎月第2火曜 | (3月)「ボランティア交流会」開催<br>(6月)「サロン・ボランティア体験講座」開催<br>(7月)「川口市青少年ボランティアスクール」開催<br>ステップアップ講座(接遇)<br>(9月)ステップアップ講座(認知症体験)<br>(10月)インフルエンザ予防接種<br>ステップアップ講座(感染対策)<br><br>「病院ボランティア体験入門講座」年2回 | (2月)<br>川口市社会福祉協議会主催の「福祉施設・病院・特別支援学校のボランティア担当者連絡会議」参加<br><br>埼玉県社会福祉大会会長表彰<br>・関口ヤス(敬称略) |
| 2017年<br>(平成29年) | (4月)6B病棟の環境整備開始<br>「トールペイント講座」年5回<br>「ふじの会絵手紙講座」年4回<br>「ほっとサロン」年11回<br>「在宅支援ボランティア定例会」年11回<br>「3B勉強会・定例会」毎月(1・8月除く)<br>「図書定例会」毎月<br>「バイオリンミニコンサート」年2回<br>「オルフェウスコンサート」毎月第2火曜<br>「ギターミニコンサート」活動開始年2回 | (3月)「ボランティア交流会」開催<br>ステップアップ講座(傾聴)<br>(6月)「サロン・ボランティア体験講座」開催<br>(7月)「川口市青少年ボランティアスクール」開催<br>ステップアップ講座(接遇)<br>(9月)ステップアップ講座(感染対策)<br><br>「病院ボランティア体験入門講座」年2回<br>「傾聴講座」年4回 | (6月)<br>関東地区病院ボランティアの会主催の「関東地区病院ボランティアの集い」参加 |

| 年 | ボランティア | 病院 | 地域との関わり・社会状況など |
|---|---|---|---|
| 2018年<br>（平成30年） | 「トールペイント講座」年5回<br>「ふじの会絵手紙講座」年4回<br>「ほっとサロン」毎月<br>「在宅支援ボランティア定例会」年11回<br>「3B勉強会・定例会」毎月（8月除く）<br>「図書定例会」毎月（8月除く）<br>「オルフェウスコンサート」毎月第2火曜<br>「ギターミニコンサート」年8回<br>「傾聴ボランティア定例会」年3回 | （3月）「ボランティア交流会」開催<br>ステップアップ講座（接遇）<br>（8月）「川口市青少年ボランティアスクール」開催<br>（9月）ステップアップ講座（感染対策）<br>（11月）ステップアップ講座（交通安全）<br><br>「病院ボランティア体験入門講座」年3回 | 埼玉県社会福祉大会会長表彰<br>・たすけあいの輪 |
| 2019年<br>（平成31年・令和元年） | 「トールペイント講座」年5回<br>「ふじの会絵手紙講座」年3回<br>「ほっとサロン」毎月<br>「在宅支援ボランティア定例会」年9回<br>「3B勉強会・定例会」毎月（8月除く）<br>「図書定例会」毎月（3月除く）<br>「ギターミニコンサート」年10回<br>「オルフェウスコンサート」年3回<br>→200回開催達成<br>「オルフェウス201回クリスマスコンサート」開催<br>「ハモニカ風あそび」活動開始年4回 | （2月）「病院ボランティア体験入門講座」<br>（3月）「ボランティア交流会」開催<br>ステップアップ講座（接遇）<br>（8月）「川口市青少年ボランティアスクール」開催<br>（9月）ステップアップ講座（感染対策） | （1月）<br>川口市社会福祉協議会主催の「福祉施設・病院・特別支援学校のボランティア担当者連絡会議」参加 |
| 2020年<br>（令和2年） | （1・2月）「ギターミニコンサート」<br>「ハモニカ風あそび」<br>（2月）「トールペイント講座」<br>「ふじの会絵手紙講座」<br><br>継続された活動<br>「たすけあいの輪」物品提供<br>「縫い物」<br><br>（10月）絵手紙ふじの会の張り替え作業<br>図書：仕分けとラッピング作業<br>5A病棟の環境整備開始<br>（11月）4A病棟の環境整備開始<br>（12月）ほっとサロン入口装飾 | （2月）「病院ボランティア体験入門講座」<br><br>2月末、新型コロナウイルスの影響により、一部の活動を除き活動を休止<br><br>10月より一部の活動が再開 | 埼玉県社会福祉大会会長表彰<br>・阿部文枝、天野豊、内藤武子（敬称略） |
| 2021年<br>（令和3年） | （4月）「コーディネーター通信」開始<br>小児科壁画制作<br>7A病棟の環境整備開始 | （10月）「ステップアップ講座」（感染対策）<br>※YouTubeにてオンライン開催 | （7月）<br>病院ボランティアコーディネーター研究会主催の「病院ボランティアコーディネーター情報交換会＝Zoom＝」参加<br><br>埼玉県社会福祉大会会長表彰<br>・大野澤昌子、今井朝子、福地静枝<br>上見優子、竹村志津子、吉野光枝<br>（敬称略） |
| 2022年<br>（令和4年） | （2月）6B病棟の環境整備開始<br>（4月）外来一部再開<br>（6月）3B病棟の環境整備開始<br>（6月・7月・8月）「訪問看護ステーションきゅうぽら」誕生日カードの作成<br>（8月）内視鏡センターの環境整備開始 | （3月）「集まらないボランティア交流会」開催<br><br>（5月）ボランティアルーム移転（西館へ） | （3月）<br>日本病院ボランティアコーディネーター協会主催の「第1回オンライン交流会」参加<br>（4月）<br>病院ボランティアの会参加（Zoomにて）<br>（6月）<br>日本病院ボランティア協会「ボランティア交流会」参加（Zoomにて）<br>（11月）<br>関東地区病院ボランティアの会<br><br>埼玉県社会福祉大会会長表彰<br>・石井丈子（敬称略） |
| 2023年<br>（令和5年） | （3月）ボランティア活動全面再開<br>出張ほっとサロン開始 | （3月）「ボランティア交流会」開催<br>※30年史頒布 | |

# ボランティア活動状況(2021年度)

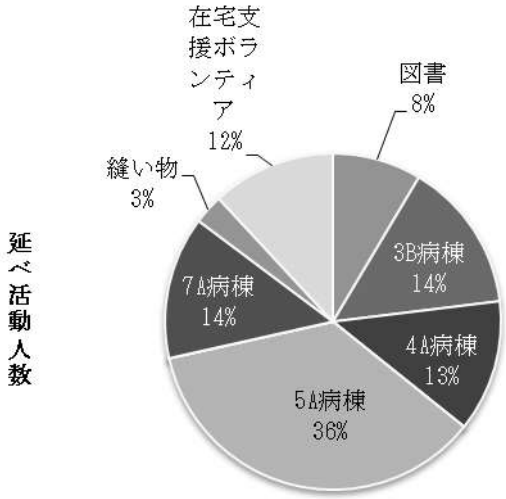
〇登録人数：119名
〇新規登録人数：2名
〇延べ活動人数：447名
〇延べ活動時間：1103時間

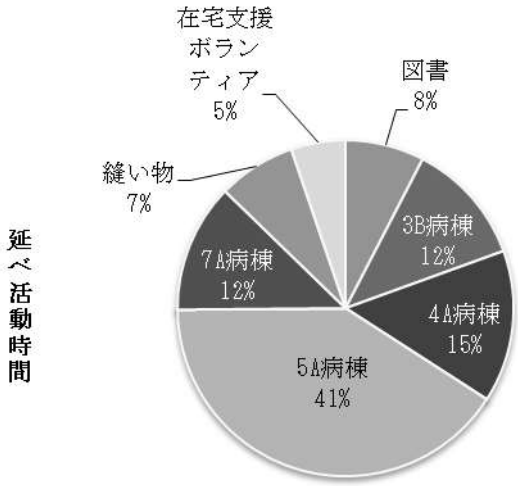



## 団体・個人別活動実績

| 団体名 | 登録人数 | 延べ人数 | | | 延べ時間 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 2021年度 | 2020年度 | 前年度比 | 2021年度 | 2020年度 | 前年度比 |
| 絵手紙ふじの会 | 15名 | 18名 | 8名 | 225% | 82時間 | 29時間 | 283% |
| 院内コンサート関連 | 36名 | ― | ― | ― | ― | ― | ― |
| たすけあいの輪 | 3名 | 43名 | ― | ― | 86時間 | ― | ― |
| 個人 | 97名 | 386名 | 120名 | 322% | 935時間 | 338時間 | 277% |

## 活動場所別実績




## 活動助成金実績

| 申請団体名 | 助成金額 | 活動内容 | 申請内容 |
|---|---|---|---|
| 小児病棟ボランティア | ¥10,000 | プレイルームの壁面の張り替え作業等 | 折り紙・模造紙・文具類等の購入 |
| 絵手紙ふじの会 | ¥30,000 | 絵手紙の寄贈、絵手紙張り替え作業等 | 絵手紙の材料費や文具類等の購入 |
| たすけあいの輪 | ¥15,000 | ホームレス等の入院患者への物品寄贈 | 寄贈で集まらない物品の補充 |
| 縫い物ボランティア | ¥5,000 | 外来・病棟から依頼を受けて、カバー類、他制作 | ミシン糸、マジックテープ等の購入 |

## 寄贈品・その他

| 団体・個人名 | | 内容 | 件数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 絵手紙ふじの会 | | 絵手紙寄贈 | 611枚 | 外来（1F・2F）、7Fに掲示 |
| たすけあいの輪 | 物品提供 | 患者さんへ物品支援 | 39件 | 入院セット、パジャマ、靴、下着、ズボン等 |
| | | ホームレス支援 | 2件 | タオル、石鹸、衣類　等 |
| | 受入れ品 | ボランティアより | 23件 | パジャマ、衣類、アメニティ、タオル、靴、日用品 |
| | | 地域の方・患者家族より | 2件 | パジャマ、衣類、キャラクター品、文具 |
| | | 職員より | 16件 | パジャマ、衣類、タオル、アメニティ、　等 |

# 活動表彰実績

〇2012年～2021年　活動表彰者氏名(敬称略)

## ～個人活動表彰～

《4500時間》
・今井朝子

《4000時間》
・阿部輝代子

《3500時間》
・大野澤昌子　・鈴木令江

《2500時間》
・佐藤良子　・福地静枝

《2000時間》
・石井丈子　・寺坂征子　・茂木智恵子

《1500時間》
・天野豊　・加藤繁代　・川村景明　・菊池一郎　・熊谷美津江
・本間孝子

《1000時間》
・上見優子　・田中静子　・内藤武子　・中村和子

《500時間》
・阿部文枝　・小野寺操　・片桐美奈子　・加藤和子　・蔵方啓子
・郷田久美子　・高橋怜子　・田口和成　・竹村志津子　・戸田勝美
・登玉郷子　・中川文雄　・藤田佳子　・山本千佳子　・吉野光枝

《200時間》
・岡元和子　・伊藤芙沙江　・金子ゆかり　・菊池弘子　・小林悦子
・小宮町子　・小森昌樹　・齋藤幸枝　・佐久間清　・櫻井恭子
・下岡園　・下條恵　・多喜みづほ　・能々百合子　・藤倉キヨ
・吉田務　・吉野順子

## ～特別表彰～

・絵手紙ふじの会　　・たすけあいの輪

・藤澤恵子（トールペイント）

## ○日本病院ボランティア協会1000時間表彰者氏名

・天野豊　　・石井丈子

・今井朝子　　・上見優子

・加藤繁代　　・川村景明

・菊池一郎　　・熊谷美津江

・田中静子　　・寺坂征子

・中村和子　　・福地静枝

・内藤武子　　・本間孝子

・茂木智恵子

## ○埼玉県社会福祉大会会長表彰者氏名

《個人》

・阿部文枝　　・天野豊

・石井丈子　　・今井朝子

・上見優子　　・大野澤昌子

・竹村志津子　　・内藤武子

・福地静枝　　・藤澤恵子

・本間孝子　　・吉野光枝

《団体》

・たすけあいの輪

# ～メイキング～

## 30年史作成の背景

ボランティアさん達との編集委員会はつくれませんでしたが、20年史から引き継いだバトンをどうつなぐか？をボランティア委員会の中で考えながら、目的や願いにそって進めてきました。みなさんからのアンケートや、インタビューなどから活動を振り返り、「地域支援活動を語ろう会」や「病院長座談会」では、これからの活動について語り合いました。皆さんと想いや願いを共有し、これからの道筋をイメージすることができたと思います。ありがとうございました。

## 目的・願い

【目的】
・この10年間を振り返り、ボランティア活動の意欲やボランティア・病院・地域との絆を深める。
・20年史で引き継がれたバトンを未来につなぎ、これからの道筋をイメージできるように。
・内外に当院のボランティア活動を知っていただく事で、より多くの方の関心や理解を得る。
・ボランティア活動に関わる全ての方々への感謝を伝えるものとして。

【願い】
今まで積み上げてきた、済生会川口総合病院のボランティア活動への敬意を忘れずに、新型コロナウイルスという大きな困難を経ても、また希望を持ってこれから活動に向かっていけるように。そしてその力が当院の患者サポートの向上に繋がり、地域を活性化する社会貢献のひとつ(済生会ソーシャルインクルージョン推進計画にも寄与)にもなることを願います。

## 編集後記

皆様のご協力を得て、なんとか30年史「虹」を発行することができました。そしてこのタイミングで、病院の後押しをいただき、すべてのボランティア活動が再開！30周年企画を通して見えてきたこれからの活動に向かって、また皆さんと一緒に進んでいきたいと思います。

・この記念誌を通して、ボランティア活動に興味を持つ方が増えたり、知って頂く事につながると嬉しいです。制作の中でたくさんの事を学ばせて頂きました。これからのコーディネーションに活かしたいと思います。（小西）
・この10年間、活動を継続する力、そして一緒につくり上げていく大変さと素晴らしさを、ボランティアさんから教えていただきました。いつも様々な場面で支えて下さるボランティアさんに改めて感謝！歩みを止めることなく、ここからまた進んでいきましょう！（野澤）
・30年史を発行するにあたり、人と人のつながりや思いを受け取りながら編集に携わることができ、ボランティア活動の歴史を積み重ねてこられた皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。これからまた未来にまかれた種をひとつひとつ集め、大切に育てながら皆さんと共に歩んでいきたいと思います。（手川）

# 「虹」に込めた思い

たくさんの実りを得てきた当院のボランティア活動が、予測不可能な変化により活動が困難となったこの3年間は、

私たちの心や身体が健康で、幸せであるために、誰かとかかわり、つながり合う…それがとても大切で、必要なことなのだと、改めて気づかされる機会でもあったと思います。

いつ止むとも知れず不安にかられた雨がやっと上がり、清々しい青空に大きな虹がかかるように、私たちのボランティア活動が、人と人、病院と地域をつなぐかけ橋となり、

みんなの笑顔につながることを目指して、ここからまた歩みを進めてゆきましょう！

２０２３年3月
済生会川口総合病院
ボランティアコーディネーター

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

埼玉県済生会川口総合病院

〒332-8558　埼玉県川口市西川口　5-11-5
TEL　048-253-1551　（代）
HP　https://www.saiseikai.gr.jp/

2023年3月28日発行

発行人：病院長　佐藤　雅彦　　編　集：医療福祉事業課